

平成26年度実施施策に係る政策評価の事前分析表

(環境省26-13)

別紙1

施策名	目標3-6 東日本大震災への対応(環境モニタリング調査)							担当部局名	大気環境課 水環境課 海洋環境室 地下水・地盤環境室 環境安全課	作成責任者名 (※記入は任意)	
施策の概要	被災地周辺の基礎的な情報等を的確に把握、提供するための環境モニタリング調査等を実施する。また、アスベストの大気濃度調査を踏まえ、更なるアスベストの飛散・ばく露防止対策を推進する。							政策体系上の 位置付け	3. 大気・水・土壌環境等の保全		
達成すべき目標	被災地周辺の環境に関する基礎的な情報等を的確に把握し、情報を国民に提供することで、国民の不安解消と復旧・復興に資する。					目標設定の 考え方・根拠	総合モニタリング計画 大気汚染防止法	政策評価実施予定時期	平成27年6月		
測定指標	基準値	目標値	年度ごとの目標値 年度ごとの実績値							測定指標の選定理由及び目標値(水準・目標年度)の設定の根拠	
			基準年度	目標年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度		29年度
1											
2											
測定指標	基準	目標	施策の進捗状況(目標) 施策の進捗状況(実績)							測定指標の選定理由及び目標(水準・目標年度)の設定の根拠	
			基準年度	目標年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度		29年度
3											
測定指標	目標		測定指標の選定理由及び目標(水準・目標年度)の設定の根拠								
1 大気中のアスベスト繊維 数濃度が10[本/L]以下で あった地点の比率(%)	100%		WHO環境保健クライテリア(EHC 53)において、「都市における石綿の大気中の濃度は、一般に1本以下～10本/Lであり、それを上回る場合もある。」とされており、その数値以下であった地点の比率は人の健康の保護と生活環境の保全を図るうえで、大気環境の状況を的確に把握できる数値であるため、測定指標として選定した。								

達成手段 (開始年度)	予算額計(執行額)			当初予算額	関連する 指標	達成手段の概要等	平成26年 行政事業レビュー 事業番号
	23年度	24年度	25年度	26年度			
(1) 環境モニタリング調査 (平成23年度)	589 (318)	1,452 (908)	1159 (965)	869	1	<p>①アスベスト大気濃度モニタリング調査(平成23年度) ②水環境放射性物質モニタリング調査等(平成24年度) ③地下水の放射性物質モニタリング調査(平成24年度) ④被災影響海域における海洋環境関連モニタリング調査(平成24年度) <達成手段の概要> ①被災地周辺におけるアスベスト大気濃度の調査 ②放射能汚染が特に懸念される地域(福島県及びその近隣県)の公共用水域における水質、底質、水生生物の放射性物質のモニタリング調査等 ③放射能汚染が特に懸念される地域(福島県及びその近隣県)における地下水の放射性物質濃度のモニタリング調査等 ④東日本大震災の被災海域における海水、海底堆積物の環境基準項目(生活環境項目、健康項目)、有害物質、放射性物質などのモニタリング調査等。 <達成手段の目標(26年度)> ①大気中のアスベスト繊維数濃度が10[本/L]以下であった地点の比率の向上 ②水環境における放射性物質濃度の把握及び調査結果の公表 ③地下水中の放射性物質濃度の把握及び調査結果の公表 ④被災地海域の水質や有害物質濃度の把握及び調査結果の公表 <施策の達成すべき目標(測定指標)への寄与の内容> ①汚染状況を的確に把握し、情報を広く国民へ提供することで、国民の不安解消と復旧・復興に資する。また、測定結果をアスベストの飛散・ばく露防止対策にフィードバックすることにより、大気汚染の防止を図り、人の健康の保護及び生活環境の保全に寄与する。 ②水環境中の放射性物質モニタリング調査等の実施により、汚染状況を的確に把握し、情報を広く国民へ提供することで、国民の不安解消と復旧・復興に資する。 ③地下水中の放射性物質モニタリング調査等の実施により、汚染状況を的確に把握し、情報を国民に提供することで、国民の不安解消と復旧・復興に資する。 ④被災地海域の有害物質、放射性物質モニタリング調査等の実施により、汚染状況を的確に把握し、情報を国民に提供することで、国民の不安解消と復旧・復興に資する。</p>	211
(2)							
(3)							
(4)							
施策の予算額・執行額					施策に関係する内閣の重要政策 (施政方針演説等のうち主なもの)		